

議題2 地方創生関連交付金事業の効果検証について

1. 地方創生関連交付金の活用経過
2. H28ふるさと・しごと創生促進事業の効果検証（H28地方創生加速化交付金事業）
3. H29ふるさと・しごと創生推進事業の概要（H29地方創生推進交付金事業）
4. 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の概要
5. 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の効果検証

2.H28ふるさと・しごと創生促進事業の効果検証

(H28地方創生加速化交付金事業)

(1) “鳥栖発”創生総合戦略における基本目標と数値目標

基本目標 1

鳥栖市における安定した雇用を創出する

数値目標

創業支援件数（2020年〔H32〕までに200件）

基本目標 2

鳥栖市への新しいひとの流れをつくる

数値目標

25～39歳人口の転入者数（2020年までに約8,400人）
→2014～2016年調査の累計＝4,587人（達成率55%）

(2) ふるさと・しごと創生促進事業における重要業績評価指標と実績値

重要業績評価指標（KPI） 本事業終了時の指標値（H29.3月）		本事業終了時の実績値 （H29.3月末時点）	達成率 （対KPI）	数年後の指標値 （H32.3月）
①年間創業支援件数	延べ90件	延べ237件	263%	延べ200件
②年間創業件数（市内創業のみ）	15件	9件	60%	20件
③とす！トリップマルシェ年間来場者数	9,000人	8,940人	99%	12,000人
④クラウドソーシング年間従事者数	10人	1人	10%	15人

(3) ふるさと・しごと創生促進事業の各KPIの検証と今後について

① 年間創業支援件数【達成率 263%】

- 鳥栖ビズにおける第二創業などの創業以外の相談件数を含めると延べ323件となり、本市における創業支援ニーズの高さを裏付ける結果となった。
- 相談者は子育て世代の女性や技術者として定年退職された男性など、性別・年代ともに多様であった。
- 今後も創業支援セミナーの開催等により、「自身の能力を活かして起業したい方」の発掘を行っていく。

② 年間創業件数（市内創業のみ）【達成率 60%】

- 市外での創業者を含めると、創業件数は合計13件。
- 今後も創業支援拠点としてのノウハウを蓄積し、継続的な創業支援に取り組んでいく。

③ とす！トリップマルシェ年間来場者数【達成率 99%】

- 鳥栖プレミアム・アウトレットの年間550万人の来場者を市内に周遊させる入り口として機能しており、地場製品の認知度の向上及び販路拡大の役割も発揮している。
- 今後は、出店者数の増加などにより品揃えの充実を図っていくことが課題である。

④ クラウドソーシング年間従事者数【達成率 10%】

- ITセミナーを15人（延べ22人）が受講し、その後、1人が業務を受託した。
- 新たな働き方として関心は寄せられるものの、実際に業務受託に達する方は少数のため、「さがんみらいテレワークセンター鳥栖」へさらに人を呼び込んでいく取組が必要である。

3.H29ふるさと・しごとと創生推進事業の概要

※H28地方創生加速化交付金事業「ふるさと・しごと創生促進事業」の後継事業

鳥栖市創業支援事業 (7,680千円)

- (一社) 佐賀県中小企業診断協会、鳥栖商工会議所、鳥栖金融協会と連携し、サンメッセ鳥栖 1 階に創業支援ワンストップ窓口を設置。
- 創業希望者や創業後間もない創業者からの各種相談に対し、各種支援制度の紹介や助言等を行う。また、農業分野への展開や企業間のマッチングに取り組む。



鳥栖産業支援相談室
(鳥栖ビズ)



H29地方創生推進交付金事業 (交付対象事業費 2,996千円)



さがんみらい
テレワークセンター鳥栖

IT系就業・活躍支援事業 (1,996千円)

- 事務職系の雇用創出を図るため、特に若者や女性ニーズがあるITを活用した就業機会の創出を行う。
- また、ITを活用した新規事業化を検討する方には「鳥栖ビズ」の創業支援へと誘導し、希望する働き方に応じた支援体制を構築する。



とす！トリップマルシェ
(鳥栖プレミアム・アウトレット)

とす！トリップマルシェの定期開催 (1,000千円)

- 鳥栖プレミアム・アウトレットにおいて、地場産品等の販売を行う。
- 年間550万人の来訪者を市内に誘導する入り口として機能させ、地場産品の認知度の向上及び販路拡大を図る。



4.鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の概要

(H28地方創生推進交付金事業)

■ 鳥栖駅周辺まちづくり基本構想 「東西をつないで はじまる新次元 ～みんなで創る 新しい鳥栖～」

平成28年3月、鳥栖駅等の鉄道施設及び分断化されている中心市街地の東西の連携を図り、鳥栖駅周辺の利便性向上と、中心市街地の活性化を目指すための基本構想を策定。

基本構想は、橋上駅・自由通路の整備、駅前広場リニューアルによる「鳥栖市の玄関口・鳥栖駅の整備」、「鳥栖駅西側中心市街地の活性化」、「鳥栖駅東側への拠点機能の導入」、「安全・安心・快適な回遊ネットワークの形成」の4項目を今後のまちづくりの基本方針とし、基本方針をふまえた鳥栖駅周辺土地利用構想を盛り込んだ。



■ 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の概要

基本構想をより具体化し、中心市街地の活性化（賑わい創出）、定住促進、公共交通ネットワークの再構築など関連施策との連携を視野に入れながら、鳥栖駅を中心とした公共空間の整備方針や導入施設計画、公有地の利用計画を検討する。

■ 事業経費内訳（交付対象事業費：32,312千円 交付決定額：16,156千円）

- ① 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定委託料 31,000千円（実績額0円）
- ② 鳥栖駅周辺まちづくり検討委員会開催経費 616千円（実績額259,660円）
- ③ 鳥栖駅建築物調査委託料 540千円（実績額540,000円）
- ④ 文化財保護審議会開催経費 156千円（実績額131,340円）

5.鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の効果検証

(H28地方創生推進交付金事業)

(1) “鳥栖発”創生総合戦略における基本目標と数値目標

基本目標 4

時代に合ったまちづくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

数値目標

- 鳥栖駅周辺地区〔鳥栖地区、鳥栖北地区、基里地区〕人口
(2015年〔H27〕30,801人→2020年〔H32〕31,200人)
- 鳥栖駅利用者数 (2013年14,003人→2020年14,500人)
- 市民満足度調査における「鳥栖駅周辺が活性化している」に対する「満足派」の割合 (2014年調査27.7%→2020年60%)

(2) 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業における重要業績評価指標と実績値

重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前	H28年度 増加目標値	H28年度実績値 (最新の指標)	達成率 (対KPI)
①鳥栖駅周辺地区〔鳥栖、鳥栖北、基里〕人口 (2015年30,801人→2020年31,200人)	30,801人 (H27.3月末)	80人	増加 275人 合計 31,076人 (H29.3月末)	99.6%
②鳥栖駅利用者数 (2013年14,003人→2020年14,500人)	14,003人 (2013年調査)	97人	増加 239人 合計 14,242人 (2015年調査)	98.2%
③市民満足度調査における「鳥栖駅周辺が活性化している」に対する「満足派」の割合 (2014年調査27.7%→2020年60%)	27.7% (2014年調査)	-	2019年調査予定	-

(3) 鳥栖駅周辺まちづくり基本計画策定事業の各KPIの検証と今後について

① 鳥栖駅周辺地区〔鳥栖、鳥栖北、基里〕人口【達成率 99.6%】

- H27.3月末とH29.3月末の比較
鳥栖地区 (11,408人→11,468人 +60人)
鳥栖北地区 (11,764人→12,097人 +333人)
基里地区 (7,629人→7,511人 -118人)
- 鳥栖地区、鳥栖北地区における戸建分譲やマンション建設等によって、鳥栖駅周辺地区としては着実に増加している一方、基里地区においては減少傾向にある。

② 鳥栖駅利用者数【達成率 98.2%】

- 事業開始前の指標と比較して239人増加。
- 一方で、鳥栖駅周辺地区の人口については増加基調にあることから、引き続き定点観測を行っていくとともに、駅利用者アンケート等で得られた意見を駅周辺の機能向上に役立てていく必要がある。

③ 市民満足度調査における「鳥栖駅周辺が活性化している」に対する「満足派」の割合【達成度 -】

- 5年に一度の市民満足度調査にて回答を得る予定。

④ 特記事項

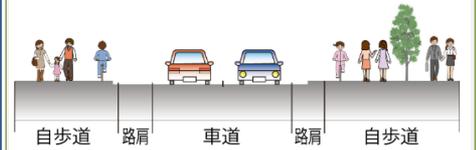
- 平成28年度の基本計画策定を目指していたが、関係機関との協議に不測の時間を要したため、策定が平成29年度へずれ込むこととなった。
- ただし、全体の整備計画は予定通り進んでいるものと考えている。

鳥栖駅周辺まちづくり基本計画 [ダイジェスト版]

歩行者動線

○東西方向のシンボルロードとなる直線的な歩行者動線を配置

▼中央公園から駅前十字交差点までのイメージ



中心商業交流エリア (中央公園等)

- フェンスの撤去等による、大型商業施設との一体的な空間形成
- 公園南口 (エントランス) の植栽等の再整備を通じた開放的な空間形成

駅前広場

- 西側 規模：7,000㎡ (現況の約2.7倍) ⇒歩行者中心の駅前広場
- 東側 規模：7,000㎡ (現況と同程度) ⇒周辺施設と一体的な歩行空間の創出

▼現況と将来の駅前広場面積

	西側	東側
現況	約2,600㎡	約7,000㎡
将来	約7,000㎡	約7,000㎡

自由通路

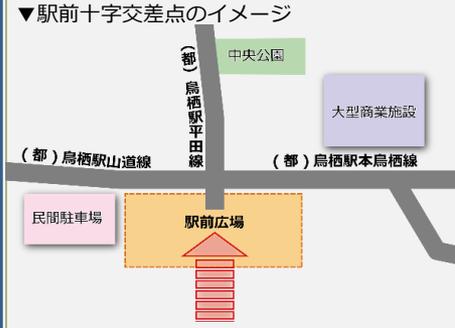
- 規模：標準幅員約6m (現況5m) ⇒エレベーター・エスカレーター・屋根を設置

駅舎

- 位置：現在の虹の橋南側付近
- 形式：橋上駅や2階駅を検討
- 規模：現況と同程度

アクセス道路・交差点

- 駅前道路4路線を3路線に集約して、十字交差点として整備



都市型居住エリア (東側公有地等)

- 民間開発用地 (都市型住宅地) ⇒中高層マンション等の都市型住宅の立地を促進
- 民間開発用地 (都市整備用地) ⇒住宅に加えて、商業や工業等を含めた新たな都市機能の導入

整備スケジュール

- 駅部 (駅・自由通路・駅前広場・交差点) ⇒おおむね10年後の供用を目標
- 駅西側 ⇒中央公園の再整備に向けて関係者協議を進める
- 駅東側 ⇒民間開発用地の売却等を進める

※本計画図はイメージであり、施設や道路の正確な位置を示すものではありません。
 ※都市計画道路 (飯田蔵上線、酒井西宿町線) は、別途、都市計画道路の見直し検討を行っています。